

氏名(本籍)	辻岡芳美(滋賀県)
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第77号
学位授与年月日	平成19年3月26日
学位論文題目	家族機能と負担感情が2型糖尿病患者の血糖コントロールに与える影響

論文内容要旨

※整理番号	79	(ふりがな) 氏名	つじおか よしみ 辻岡 芳美
修士論文題目	家族機能と負担感情が2型糖尿病患者の 血糖コントロールに与える影響		
<p>【研究の目的】家族看護を臨床で実践するための基礎研究として、家族機能の改善が2型糖尿病患者のセルフケアのためのソーシャルサポートとなりえるのかを量的に検証するために、家族機能が患者の心理的負担感を軽減し、セルフケア行動を促し血糖コントロールに影響することを明らかにすることである。【研究の方法】A病院内科外来を受診している成人期以降のインスリン非使用2型糖尿病患者151名に対し、家族機能、負担感情、セルフケア行動、血糖コントロールの関連を調査した断面研究である。家族機能評価尺度として FASESKG IV-16、糖尿病の治療を続ける上での負担感情として PAID、糖尿病の自己管理として内服療法、自己血糖測定、食事療法、運動療法の実行度、血糖コントロールの指標として HbA_{1c} 値および性・年齢などの背景因子を用い、各因子間の関連を検討した。解析は各因子間の単相関、各因子間の群間比較（t検定およびχ^2検定）を行った。さらに目的変数（負担感情、HbA_{1c} 値、セルフケア行動実行度）に対し、これまでの検定にて有意差のあった項目を説明変数として重回帰分析およびロジスティック回帰分析を行った。</p> <p>【結果】対象患者数151名のうち137名の回答を得、有効回答率は90.7%であった。家族機能、負担感情のα係数はそれぞれ0.9以上と高い信頼性を得られたがセルフケア行動のα係数は0.44と低かった。各因子間の比較では、家族機能の構成因子である「きずな」は負担感情が高くなると強くなる、負担感情はHbA_{1c}値が高値であると強いという結果であった。しかしセルフケア行動と家族機能、負担感情、HbA_{1c}値との関連は見られなかった。背景因子との関連では、家族機能「きずな」および負担感情は年齢の若い傾向の人に強く、HbA_{1c}値は女性の方が高いという結果であった。重回帰分析の結果、負担感情に影響するのは、HbA_{1c}値・年齢・家族機能「きずな」であり、HbA_{1c}値に影響するのは負担感情・性別であった。【考察】負担感情が強ければ血糖コントロールは不良になり心理状態は結果因子に影響を与えると考える。負担感情は年齢の比較的若い人に強く、年齢の比較的若い人は家族機能「きずな」も強いことから、情緒的結合が強すぎる状況において感情の巻き込まれがあると患者は負担感情を強くもつのではと考えられる。巻き込まれ状況は患者にとってストレスとなり、負担を強く感じてしまう悪循環を招いていることが考えられる。</p> <p>【総括】今回の調査結果から家族機能の情緒的結合をバランスよく保つことで患者の負担感情を軽減し、結果としてHbA_{1c}値を良好に保つ可能性があることが示唆された。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。